

いも見られる。今後、実際の学部教育カリキュラムの中で両者をどのように位置づけて行くか、十

分に検討する必要がある。

6. 準備教育・行動科学教育委員会

中村 千賀子（委員長・東京医科歯科大学）

1. 今年度の目標

現行の「準備教育モデル・コア・カリキュラム」を、時代状況、医療環境、臨床現場の実情と変化の動向に即して吟味し、新たな準備教育モデルに必要な、情報収集、分析、検討、素案づくりを行う。

「準備教育モデル・コア・カリキュラム」において内容が十分に活用されていない「人の行動と心理」を見直し、教育現場に即した代替案を作成すべく、重点的に検討する。

2. 準備教育の位置づけ

教養科目との橋渡し、卒前専門教育に関わる基礎知識やスキル修得としてのみの準備教育ではなく、卒後の、専門職・社会人として歩み続ける上での準備教育と位置づける。とりわけ人文・社会科学領域では、多様で変化し続ける社会状況や医療環境を常に把握し、対応し学び続ける「生涯学

習社会」を想定、これを生き抜くに必要な見方や方法、関連学問領域の参照・活用方法などを学ぶことを準備教育と考える。

3. 準備教育モデル・コア・カリキュラム全体について

「情報の科学」については、科学的見方や方法論（人文・社会科学のそれを含む）、その基盤となるフィロソフィー、調査法、発表スキルなどを含む上位カテゴリー「キャリア開発の基礎スキル」を新たに立て、統合すべく検討する。

「人の行動と心理」を、個人の心理、行動、対人関係を軸とする項目と捉え、これとは別に、社会関係、生活環境、制度、政策、経済、文化などの文脈から人間、社会、医療についての総合的な理解を育む「社会と医療」という項目を検討する。「くらしの現場」を中心に据え、その前提となる制度や経済などの社会環境とそこで社会関係を生きる個人の双方に注目できるモデルを模索する。

7. FD 委員会

高橋 弘明（委員長・岩手県立中央病院医療研修部）

FD (Faculty Development) は、学習指導者の教育能力開発を意味する言葉として使われていることが多い。日本医学教育学会 FD 委員会は、卒前・卒後教育に関わる FD 充実を活動目標としている。全国の FD の現状を把握するとともに、

年一回の医学教育者のためのワークショップ（富士研 WS）の企画・運営を行う。富士研 WS は全国の医師養成機関等で、指導的立場にある人材を対象に、FD を企画・運営する能力の修得を目的とするほか、医学教育の発展と開発を行うための